



鈴木 富士子

そば処 心平庵 代表

昭和 36 年（1961）、郡山市生まれ。
高校卒業後、いわき市のデパートに就職。結婚退職後、専業主婦を経て
2009 年「川内高原そば」に採用され、道の駅よつくら港内の店舗に勤務。
震災後は小名浜のいわき・ら・らミュウ内で店を再開し、2016 年より代表。
2019 年 4 月、再建した道の駅よつくら港に店舗を移転。

あの日の大津波は、勤めていた店舗があった「道の駅よつくら港」にも
大きな被害を及ぼしました。立入禁止が解かれた 1 週間後によく様子を
見に行くと、店のすぐ脇には大きな船が打ち上げられ、店内の大型冷蔵庫や
調理台は全て流されて、壁もなく、配線はむき出しに。さらにその後、
原発事故が起きて、何もかも失ったような気持ちで呆然としていました。
当時の風景はセピア色で、他の色の記憶がありません。

でも一つだけ、そば粉の練り器が使える状態で見つかったんです。

「そば打ちを続けなさい」と声が聞こえるようでした。

復興祭や炊き出しなどでそばを打ったび、お客さんに喜ばれることが力になりました。
その年の 11 月に「心平庵」と改名し、社長の決断から小名浜で店を再開。

同じ女性である社長を支えようと従業員とともに必死に頑張り、店長としても
奮闘しました。その後、社長から代表を譲り受け、再建した道の駅よつくら港で
店を再開することができたのは、とてもありがたいこと。何もかも失ったような
震災当時は、このような日が来るとは想像できませんでした。お客さんやそば仲間
助けられながら、奥深いそば打ちを細く長く、これからも続けていきたいです。



川内村産のそば「会津のかおり」でつくる二八そばを提供。
お客さんに「おいしかった」と言われるのが一番うれしいと話す

「そば打ちを続けなさい」
という声が聞こえた